

1. 領域構成教職員・在職期間

地域こころの支援部門・客員教授	杉山 登志郎	平成29年4月－
地域こころの支援部門・准教授	森本 武志	平成29年10月－
地域こころの支援部門・特命准教授	鈴木 太	平成29年9月（令和4年4月より現職）－
地域こころの支援部門・特命職員	藤枝 政矩	令和5年1月－
地域こころの支援部門・特命職員	中道 秀尚	令和7年1月－

2. 研究概要

研究概要

【地域こころの支援部門】

本部門は、福井県の要請をうけ、発達障がいやトラウマ関連障がいのある児童のライフスパンにわたった診療支援ができる専門医を中心に、地域の社会的支援・養護を要する家庭や児童への援助、地域に対する良質な治療の情報の提供、専門医の育成を目的として令和4年度に設立された。小児期から大人までの発達障がい・トラウマ関連障がいの支援モデルの開発、発達障がいやトラウマ関連障がいのアセスメントや治療に精通し、地域支援の行える専門医の育成・定着、地域の機関への医師派遣、医師・コメディカル・支援職員に対する研修の実施等、医療・療育体制整備に関する研究ならびに構築に向けて活動を行っている。

またレジデント研修のための場である福井大学医学部附属病院「子どものこころ診療部」の研修環境を整え、レジデントが各種の疾患を経験することができるような教育現場作りにも力を入れている。全国で6番目の摂食障害治療支援拠点病院に指定された福井大学医学部附属病院「神経精神科」では摂食症の症例を中心として週1回のスーパービジョンを行っており、摂食症の臨床を通じて得られた知見の一部を「はじめてのFBT実践ガイド」として厚生労働科学研究で報告した。杉山登志郎客員教授による月1回のスーパービジョンに加え、県立病院、療育センター、児童相談所および少年鑑別所、家庭裁判所等、院外での関係機関における研修の機会を充実させる役割も担っている。

また、本部門は福井県障がい福祉課により、県における精神保健福祉・コメディカルを含めたスキルアップに対する支援を求められている。教員による研修講師やスーパービジョンを、具体的には臨床心理士会、児童相談所、療育センター、ステップスクール、乳児院等で行っている。また、福井子どものこころの臨床研究会の運営にも携わり、情報交換の場を定期的に提供している。

- さらに、本部門の地域精神医療への貢献として、
- ・福井大学医学部附属病院子どものこころ診療部における外来診療
 - ・レジデントが開業したクリニックでの診療
 - ・福井県こども療育センターにおける診療
 - ・福井県総合福祉相談所の嘱託医業務

などで診療活動を行っている。また、福井県こども療育センターにおいては、保護者向けの学習会を実施している。

研究に関しては、発達障がいの一つである注意欠如多動症の症状を評価する質問紙であるADHD-RS-5日本語版を開発して、マニュアルを出版、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、それらに伴う併存症を診断する構造化面接であるK-SADS-PL-5日本語版を開発して、その出版を準備し、コンピュータ版であるKSADS-COMP日本語版について多施設共同で開発を進めている。また、工学部と共同で、トラウマ関連障がいに対する治療機器の開発を行っている。

キーワード

【地域こころの支援部門】

精神医学、K-SADS-PL、DSM-5、構造化面接、対人関係療法、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、抑うつ障害、双極性障害、不安症、強迫症、心的外傷後ストレス障害、地域援助、非行、RNR原則、児童相談所、療育

業績年の進捗状況

【地域こころの支援部門】

1. 小児期から大人までの発達障がい・トラウマ支援モデルの開発

本学附属病院において、被虐待児童およびその保護者に対しての親子並行治療、発達障がい児童およびその保護者、保護者自身に発達課題の存在する家庭に対しての保護者を治療対象とした薬物・心理学的治療を令和6年度も継続して行った。杉山客員教授の開発したトラウマ治療に特化した4セットTSプロトコルと電子機器を活用した治療法については、従来のものより短時間でできるため、外来の多くの患者に実施できた。TSプロトコルについては杉山客員教授が当院職員を対象にしたTSプロトコルの実施手順に関する勉強会を定期的に行った。また患者自身がセルフで行えること、あるいは外来診療を円滑にすることを目的としたウェアラブル機器を活用した新たな方法も工学部東海研究室と共同で開発中であり、試作のウェアラブル機器を試験的に運用することでデータを収集し、製品化に向けた準備を進めた。また、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、それらに伴う併存症を診断する構造化面接であるK-SADS-PL-5日本語版について出版を準備し、コンピュータ版であるKSADS-COMP日本語版について多施設共同で開発を進めている。

2. 発達障がい等のアセスメントや治療に精通し、地域支援の行える専門医の育成・定着

当部門の育成プログラムを卒業したレジデント及び研修を継続するレジデントはいずれも外来診療を行えるようになり、それぞれ本学附属病院または福井県立病院を中心とした県内医療機関で専門医として診療を行っている。またそのうちの2名と教員が児童相談所の嘱託精神科医を務めている。令和6年度は新たに3名のレジデントを迎え、外来陪席、症例検討会などに積極的に参加、また指導下に外来診療を行っている。

3. 地域の機関への医師派遣、医師・コメディカル・支援職員に対する研修の実施

本年度は児童相談所にレジデント2名および教員を嘱託医として派遣し、医学判定および外部医療機関への紹介業務を行った。教員は越前市主催の療育研修会、県知的障害者福祉協会の支援者養成研修で講師を務めた。また随時、療育センターにおいては特に学童期・思春期の高機能神経発達症の保護者向けの学習会を実施し、福井少年鑑別支所の要請による少年の精神医学的判定業務に参画した。教員、心理士は要保護児童対策地域協議会個別ケース会議にも複数回参加した。また心理士は乳児院やステップスクール等で継続的な症例相談、勉強会を月に1回程度開催し、坂井市教育委員会主催の講演会では発達障がいと不登校をテーマにした講師を務めた。さらに複数の児童養護施設、児童家庭支援センター、教育機関を定期訪問し、各機関との関係作り、SSW等との連携を進めた。

4. 精神保健福祉センターの常勤医師1名の確保

令和6年4月には当部門の育成プログラムのレジデントとして福井大学医学部附属病院神経科精神科医局に3名の医師（うち2名が県外からの流入）が加入した。引き続き、県内で地域精神医療に従事する精神科医をリクルートしている。令和8年度に、精神保健福祉センターの常勤医師1名を派遣できるように計画している。

特色等

【地域こころの支援部門】

福井県からの要請である①小児期から大人までの発達障がい・トラウマ関連障がいの支援モデルの開発、②専門医の育成・定着、③地域の機関への医師派遣および医師・コメディカル・支援職員に対する研修の実施、④精神保健福祉センターの常勤医師1名の確保を目指した医療・療育体制整備に関する研究ならびに構築に向けて活動を行った。またレジデント研修のための場である「子どものこころ診療部」の研修環境整備、県の精神保健福祉業務支援で研修講師や監修を行った。平素は診療や教育業務が主となるが、研究に関しては、工学部と共同で、トラウマ関連障がい治療に用いることのできる新たなウェアラブル機器の開発にも取り組んだ。

本学の理念との関係

【地域こころの支援部門】

世界水準の診断と治療を行うことができる児童青年精神科医の育成を目標としており、このために様々な研究・活動が行われている。またこれが、地域に対して開かれた形で提供されており、地域の児童青年精神科医療の水準の向上に寄与している。

3. 研究実績

区分		編数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
		2018～2023年分	2024年分	2018～2023年分	2024年分
和文原著論文		0	0		
	ファーストオーサー	0	0	0(0)	0(0)
英文論文	コレスポンディングオーサー	0	0	0(0)	0(0)
	その他	0	0	0(0)	0(0)
	合計	0	0	0(0)	0(0)

(A) 著書・論文等

(I) 英文：著書等

a. 著書

- b. 著書（分担執筆）
 - c. 編纂・編集・監修
 - (2) 英文：論文等
 - a. 原著論文（審査有）
 - b. 原著論文（審査無）
 - c. 原著論文（総説）
 - d. その他研究等実績（報告書を含む）
 - e. 国際会議論文
 - (3) 和文：著書等
 - a. 著書
 - b. 著書（分担執筆）
 - c. 編纂・編集・監修
 - (4) 和文：論文等
 - a. 原著論文（審査有）
 - b. 原著論文（審査無）
 - c. 総説
 - d. その他研究等実績（報告書を含む）
- 2498001** 杉山登志郎：【今の時代のトラウマ：心理的支援・治療と病態研究】心理的支援・治療 TSプロトコール，臨床精神医学，54(1)，59-58，202501
- 2498002** 杉山登志郎：【受着障害と発達軌跡】ためこみ症の臨床，そだちの科学，43，53-58，202410
- 2498003** 杉山登志郎：3つの発達障害と3つの受着障害 整理と今後の展望，乳幼児医学・心理学研究，33(1)，47-59，202409
- 2498004** 杉山登志郎：【発達障害を支援する】極少量処方と漢方薬の活用，カレントセラピー，42(7)，584-589，202407
- 2498005** 杉山登志郎，黒木 俊秀：【発達障害が多すぎる-精神科の診断を再考する】精神科の診断とどう付き合うのか，そだちの科学，42，66-74，202404
- 2498006** 杉山登志郎：【発達障害が多すぎる-精神科の診断を再考する】ディメンショナル・モデル診断による家族併行治療，そだちの科学，42，21-29，202404
- e. 国際会議論文
- (B) 学会発表等
- (1) 国際学会
- a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
 - d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他
- (2) 国内学会（全国レベル）
- a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
 - d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他
- (3) 国内学会（地方レベル）
- a. 招待・特別講演等
 - b. シンポジスト・パネリスト等
 - c. 一般講演（口演）
- 2498007** 藤枝政矩、濱谷沙世、平野好幸、下野九理子、水野賀史：GazeFinderを用いたADHDに特有な視線パターンの解明と客観的評価ツールの開発，第22回 日本小児心身医学会東海北陸地方会，オンライン開催，20250309
- d. 一般講演（ポスター）
 - e. 一般講演
 - f. その他
- (4) その他の研究会・集会

- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）
- e. 一般講演
- f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究 (C)	子どものための診断アセスメントとサービス改善プロジェクト	鈴木 太	森本 武志, 宮脇 大, 牧野 拓也, 小坂 浩隆, 木村 拓磨, 岡田 俊	20190401-20250331	¥0

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額
受託研究	国立大学法人大阪大学	ウェアラブルデバイスを利用した簡易型トラウマ治療機器の開発	水野 賢史, 東海 彰吾, 杉山 登志郎, 森本 武志, 藤枝 政矩	20240401-20250331	¥2,670,000

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本小児心身医学会	一般会員	森本 武志
日本トラウマティック・ストレス学会	一般会員	森本 武志
日本EMDR学会	一般会員	森本 武志
日本児童青年精神医学会	一般会員	森本 武志
日本児童青年精神医学会	代議員	鈴木 太
日本精神神経学会	一般会員	鈴木 太
日本摂食障害学会	評議員	鈴木 太
日本総合病院精神医学会	児童・青年期委員会委員	鈴木 太
日本小児心身医学会	一般会員	鈴木 太
日本認知・行動療法学会	一般会員	鈴木 太
日本犯罪心理学会	一般会員	森本 武志

(C) 座長

国内学会 （全国レベル）	学会名	氏名
-----------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長（主査）・委員の別	氏名	査読編数
----------	-------	--------------	----	------

(E) その他

6. 産業・社会への貢献

(A) 国・地域等への貢献

(1) 審議会・委員会・公益法人・会社等への参加状況

区分	機関の名称等	委員会の名称等・役割	氏名	期間
----	--------	------------	----	----

(2) 社会人等への貢献及び学校等との連携・協力による活動

区分	活動名・活動内容	主催者・対象者等	氏名
----	----------	----------	----

(B) 国際貢献

国際協力事業

活動名・活動内容	氏名	相手方機関名	役割	期間	活動国名
----------	----	--------	----	----	------

(C) その他業績

(D) 特記事項